

【第 38 回例会報告】=====

1. 参加者数：192名（学生会員8名含む）
2. 講演件数：16件（特別講演：1件、受賞記念講演：2件、招待講演：3件、一般講演：10件（学生口頭発表5件含む）
3. 今回の例会を振り返って（運営委員長：内藤 裕義 大阪公立大学）

今回（第38回）の例会は、江東区 国際研究交流大学村にある東京国際交流館 国際交流会議場で開催されました。

今回の例会では、上述の通り、特別講演1件、特別セッション（招待講演）3件、受賞記念講演2件、一般口頭発表10件（うち、学生口頭発表5件）で計20件の講演があり、192名の参加登録者を得て開催することができました。

特別講演では、津田塾大学&早稲田大学エクステンションセンターの麻倉怜士先生から、「実面で見る 有機 EL さらなる高画質への挑戦」と題し、有機 EL の画質向上の変遷をご講演いただきました。特別セッションでは、有機 EL のアプリケーションをテーマに、東芝テックの谷本弘二氏から、「有機 EL プリントヘッドの開発とカラーMFP（複合機）への搭載」と題し、有機 EL パネルとロッドレンズアレイとを組み合わせた複合機用有機 EL プリントヘッドの開発に関する講演をいただきました。Samsung Display の Yongjo Kim 氏から、「Under-display Camera and OPD Sensor-integrated OLED Display」と題し、カメラ機能ととどまらず、複数の指の指紋を検知することによる高度な認証、バイオセンサとしての有用性、設計、製作法について紹介いただきました。UBI Research の占部哲夫氏には、「今後の OLED 市場・技術動向における注目点について」と題し、OLED TV のみならず VR、MR、AR などのアプリケーションで必要となる特性についても議論いただきました。受賞記念講演では、明治大学の野口裕先生から、「有機 EL 材料の自発的配向分極に関する先駆的研究」、山形大学の硯里善幸先生から、「世界最高性能の塗布型バリア膜の開発」と題した講演をいただきました。いずれの講演も先生方の業績をととても分かりやすく説明いただき、その重要性を改めて認識することができました。一般講演においては、評価、材料物性、学生口頭発表の3セッションを設け、10件の講演がありました。内容としては、SiNx 封止膜の水分透過評価、OLED の変位電流と発光輝度の高感度測定、回転型 Kelvin Probe 装置による配向緩和現象の観察、電荷移動状態を利用した固体アップコンバージョン、TADF 発光材料におけるスピン反転、学生口頭発表では、有機半導体界面における低エネルギーオフセットでの電子移動促進、多重共鳴型発光体におけるピレンの位置異性体効果など多岐に渡り、有機発光材料、発光ダイオードなどの基礎的な理解、高性能化、新しい応用の開拓が期待できる内容でした。

初日の招待講演終了後には、展示会出展10社による企業展示広告のセッションを行い、その後、次の一般講演（評価）開始まで30分の休憩を設けました。以前の例会のアンケート結果に基づき、休憩時間を長くし、参加者が企業展示ブースで十分な質疑ができるように配慮しました。一般講演（評価）終了後、テレコムセンター駅近くのスカイレストランシーガルに移動後、交流会を開催しました。

アンケートについては今回40名の方から回答をいただきました。特別講演、特別セッションで取り上げるべきテーマ、例会開催場所、運営上の問題など、頂戴したコメントは今後の参考とさせていただきます。運営委員会としましては引き続き、有機 EL の最新動向に関連するトピック、および、有機 EL のデバイス開発や評価・基礎物性などの講演を募って、会員の皆様の研究開発に活かして頂けるような例会を目指していきたいと考えております。宜しく願い申し上げます。

4. 例会プログラム・アンケート結果

https://yuki-tohronkai.jp/data/program/program38_1.pdf : 例会プログラム

<https://yuki-tohronkai.jp/data/question/20240628.pdf> : アンケート結果

5. 次回例会の開催案内（実行委員長：河村 祐一郎 出光興産株）

第39回例会は、2024年11月28日（木）、29日（金）に福井県県民ホール（福井市）にて開催致します。詳細な開催案内は8月中旬頃に公開する予定で進めておりますので、皆さまのご投稿およびご参加をお待ちしております。